|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| No.1「表紙のない本」  「表紙のない本」初期証拠カード  表紙が剥がれ落ちて題名が分からなくなってしまった本。貴族によれば、この本は第二巻であるらしい。 | No.2「非科学的な内容」  「表紙のない本」From学者  本の内容は、学者に言わせれば真っ当なものではないらしい。 | No.3「本の注文」  「表紙のない本」From  貴族の名前入りで古本探しの依頼を出した。これはそのことを示す注文書だ。 |
| No.4「本、譲ります？」  「表紙のない本」From記者  少し前に、匿名で題名のない本を譲りたいという広告依頼があったが、結局立ち消えになった。 | No.5「二人目の本探し」  「表紙のない本」From靴磨き  マスターが靴磨きに、表紙のない本について何か知らないかと相談しに来ていたようだ。 | No.6「路地裏の取引」  「表紙のない本」From靴磨き  路地裏で学者が、何かに怯えた雰囲気の誰かから怪しい袋を受けとっていたらしい。 |
| No.7「一組の呪いの書」  「表紙のない本」Fromマスター  マスター曰く例の本は、公表や雑に扱うなどすると死神に殺されるが、一組揃えば処分してもいいらしい。 | No.8「流通しない本」  「表紙のない本」From商人  例の本は古本としてすら流通しない無名なもので、個人が所有している可能性が高いようだ。 | No.9「三冊一組の本」  「表紙のない本」From記者  呪いの書は、三冊で一組になっているらしい。 |
| No.10「貴族の心配」  「表紙のない本」From貴族  例の本について第一巻の持ち主がわかったが、貴族はこのことが大っぴらになるのをまだ心配している。 | No.11「号外新聞・三冊一組の本」  「表紙のない本」From記者  三冊で一組になっているという、呪いの書についての記事が載っている号外新聞の草稿。 | No.12「号外・処分した呪いの本」  「表紙のない本」From学者  呪いの書は、学者が雑に扱い紛失したものだった。そして呪いの書の最終巻は、学者が既に燃やしていた。 |
| No.13「処分した呪いの本」  「表紙のない本」From学者  呪いの書は、学者が雑に扱い紛失したものだった。そして呪いの書の最終巻は、学者が既に燃やしていた。 | No.14「死神」  「表紙のない本」真相失敗/貴族  貴族はついに死神に殺されてしまう、もうこの街を出て行くしかないと言い始めてしまった。 | No.15「取り越し苦労」  「表紙のない本」真相カード/学者  学者の話を聞いて、貴族はようやく落ち着きを取り戻した。死神など存在しなかったのだ。 |
| No.1「友人について」  「読めない手紙」初期証拠カード  事故死したあなたの友人に関する情報。 | No.2「新月」  「読めない手紙」From記者  事故は三日前の新月の日、その友人は馬車に轢かれて死んだらしい。 | No.3「金の無心」  「読めない手紙」From商人  あなたの友人から借金の依頼が来たが、商人は断ったらしい。 |
| No.4「予定外の出来事」  「読めない手紙」Fromマスター  十日前、その友人は「こんなはずじゃなかった」と酒場で呟いていた。 | No.5「友人の儲け話」  「読めない手紙」From靴磨き  一ヶ月程前、その友人は儲け話が入ったらしく喜んでいる様子だった。 | No.6「鉱山の開発権入札」  「読めない手紙」From貴族  二週間前、友人の会社は鉱山開発の入札でライバル会社に負けていた。 |
| No.7「入札情報がばらされた？」  「読めない手紙」From記者  落札会社の入札価格はいつもと比べ不自然で、疑問が残る。 | No.8「商人の従兄弟」  「読めない手紙」Fromマスター  鉱山開発権を落札した会社は、商人の従兄弟が経営しているらしい。 | No.9「商人の融資」  「読めない手紙」From靴磨き  上手く儲けられたらしい商人は、友人に融資を行っていた。 |
| No.10「臨時休業」  「読めない手紙」From記者  新月の日、商人の店には臨時休業の張り紙が出されていた。 | No.11「酒の購入」  「読めない手紙」Fromマスター  酒を飲まない商人が、客のためと言って適当に強い酒を買っていった。 | No.12「商人の独白」  「読めない手紙」真相カード/商人  友人は商人らの不正に気付く直前、会社から脅された商人に殺された。 |